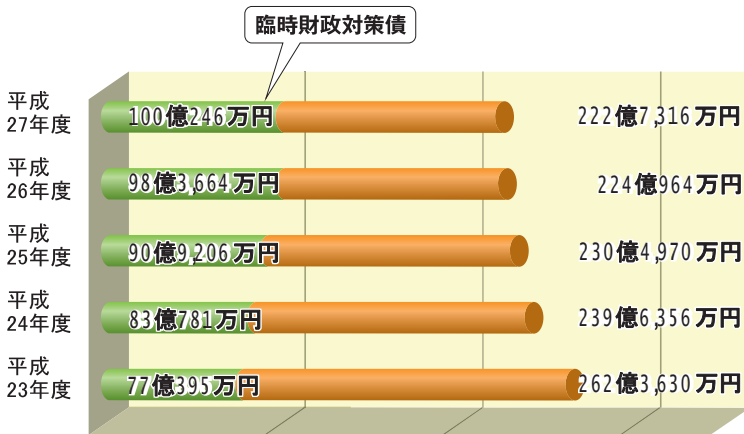


市債現在高の推移



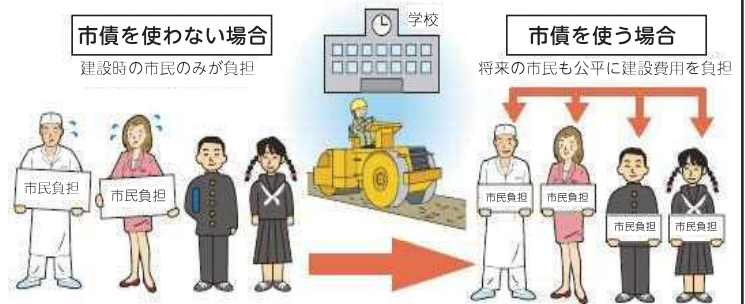
市の借金がいくらあるかを市債現在高といい、平成27年度末で222億7,316万円あります。

市民の皆さんが利用する公共施設の整備がピークを過ぎたため、平成18年度から減少しています。

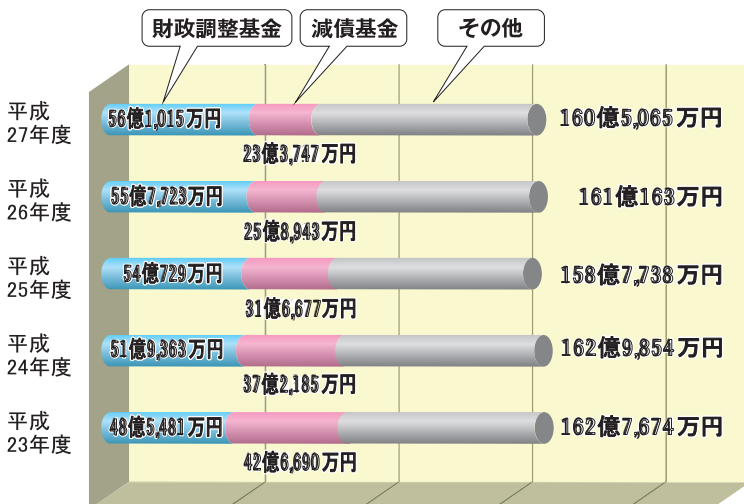
国が地方交付税として配るお金が足りない分を、市が代わりに借り入れる臨時財政対策債の発行額は、今後も増加傾向で推移すると見込まれます。

公共施設をつくるのになぜ借金するの？

地方自治体は、将来にわたって長期的に使われる道路や学校などの公共施設を整備するための財源に、地方債(大野城市は市債)を活用します。これは、つくる年の市民が全額負担するのではなく、公共施設を使うすべての世代で、公平に負担してもらうという役割があるからです。しかし、借金という将来の負担を残すことになりますから、借金の金額は、現在の財政状況、将来の財政見通しから決めなければなりません。



基金現在高の推移



市の貯金がいくらあるかを基金現在高といい、平成27年度末で160億5,065万円あります。

平成27年度は、まちづくりのために積み立てていた基金(公共施設整備基金や連続立体交差事業等整備基金など)を目的どおり使ったため、平成26年度末に比べ5,098万円減少しています。

平成27年度末で、財政調整基金は、56億1,015万円、減債基金は23億3,747万円です。

用語解説

財政調整基金 年度間の財源の不均衡を調整するための貯金です。具体的には、経済不況などにより大幅に税収が減少したときや災害の発生などで思わぬ支出が必要になったときに役立てるものです。

減債基金 市債の償還を計画的に行うための貯金です。具体的には、市債の償還額が増加し、他の経費を圧迫するようになったときに償還財源とするためのものです。